



注目ポイント

- ✓先週は日銀の氷見野副総裁の会見などを受けて、日銀が翌週の決定会合で追加利上げを決めるとの思惑が広がり、日本の長期金利が一時大幅に上昇した。一方、米国では24年12月のCPIやウォラーFRB理事の発言などを受けて、FRBの追加利下げが遅れるとの過度な懸念が後退し、長期金利が大幅に低下した。米長期金利の低下を受けて米株式相場は上昇し、外為市場では円高ドル安が進んだ。円は一時1ドル=154円98銭と、およそ1か月ぶりの高値を付ける場面もあった。
- ✓今週は、20日にトランプ米大統領の就任式、23～24日に日銀の金融政策決定会合と重要なイベントが相次ぐ。市場では日銀の追加利上げ観測が高まっているものの、トランプ氏の就任演説によって金融市場が混乱すれば、日銀の利上げが先送りされる可能性もある。トランプ氏が就任後に打ち出す政策の内容が最大の注目点となろう。(北田英治)

①マーケット動向(実績データ)

2025年1月13日

～

2025年1月17日

市場・指標			1月13日 ～ 1月17日		1月17日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	 日本	日経平均 (円)	39,591	38,056	38,451	-739	-1.9%	
	 米国	NYダウ (ドル)	43,653	41,845	43,488	+1,549	+3.7%	
	 ドイツ	DAX (ポイント)	20,925	20,025	20,903	+689	+3.4%	

市場・指標			1月13日 ～ 1月17日		1月17日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	 日本	10年 (%)	1.255	1.175	1.200	+0.000	
	 米国	10年 (%)	4.81	4.57	4.63	-0.13	
	 ドイツ	10年 (%)	2.65	2.51	2.54	-0.06	

市場・指標			1月13日 ～ 1月17日		1月17日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	 米ドル (円)		158.20	154.98	156.30	-1.43	
	 ユーロ (円)		162.89	159.73	160.56	-1.03	
	 豪ドル (円)		97.96	96.07	96.79	-0.13	

市場・指標			1月13日 ～ 1月17日		1月17日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	 日本	東証リト (ポイント)	1,659	1,633	1,644	-5	-0.3%	
	 米国	NY原油 (ドル)	80.77	76.54	77.88	+1.3	+1.7%	
		NY金 (ドル)	2,759	2,672	2,749	+34	+1.2%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年1月20日 ~ 2025年1月24日

株式

値幅の大きい展開か

 日経平均株価
【予想レンジ】 37,500 円 ~ 39,500 円

- 先週の日経平均は大幅に下落。連休明けの14日には、前日に米政権が発表した人工知能（AI）向け先端半導体の輸出規制見直し案が嫌気されて、国内の半導体関連株が軒並み急落した。また週末17日には、前日の米株安に加えて、ドル円レートが円高ドル安に進んでいることが重荷となり、輸出関連株を中心に売りが優勢となった。
- 今週の日経平均は上下に値幅の大きな展開か。トランプ米大統領が20日の就任式後に自国優先の関税政策を決めれば、東京市場では輸出関連株に売りが広がる可能性もある。その一方で、トランプ氏が現実的な対応を取れば、株式市場では見直し買いが入ると予想される。日銀が24日の会合で追加利上げを決めれば、円安の流れが後退するため、株式相場にとってはネガティブな材料となろう。



 金利
(国債)

長期金利は強含みの展開か

 10年国債利回り
【予想レンジ】 1.150 % ~ 1.270 %

- 先週の国内金利は一時大幅に上昇した。14日には、日銀の氷見野副総裁の会見を受けて、日銀が23~24日を開く金融政策決定会合で追加利上げを決めるとの思惑が広がり、長期金利の上昇を促した。15日には10年国債利回りが一時1.255%と13年9か月ぶりの高水準となった。ただ週後半は米長期金利の低下を受けて国内金利も低下した。
- 今週の国内金利は強含む展開か。日銀が24日の会合で追加利上げに踏み切る公算が大きくなっており、長期金利には上昇圧力がかかりやすいとみられる。ただ、20日のトランプ米大統領の就任演説を受けて、金融市場が不安定な動きを強めれば、日銀が利上げを見送る可能性もある。



 為替
(米ドル)

円強含みを見込むも、トランプ就任演説に要注意

 米ドル/円
【予想レンジ】 153.00 円 ~ 158.00 円

- 先週のドル円は大幅な円高ドル安となった。15日のNY市場では、24年12月の米CPIを受けてインフレ再燃への警戒が後退し、米長期金利が大幅に低下したため、ドル売りが優勢となった。16日にも、FRBのウォラー理事の発言などを受けて米長期金利が低下し、ドルが売られた。週末17日には一時1ドル=154円98銭と、およそ1か月ぶりの円高ドル安水準を付ける場面もあった。
- 今週のドル円は円強含みでのみ合いか。日銀が24日の会合で利上げを決める公算が大きくなっており、円買い圧力が高まりやすいと予想される。ただ、20日のトランプ米大統領の就任演説で金融市場が混乱すれば、日銀が追加利上げを見送るとの観測から、円売り圧力が高まる可能性もある。



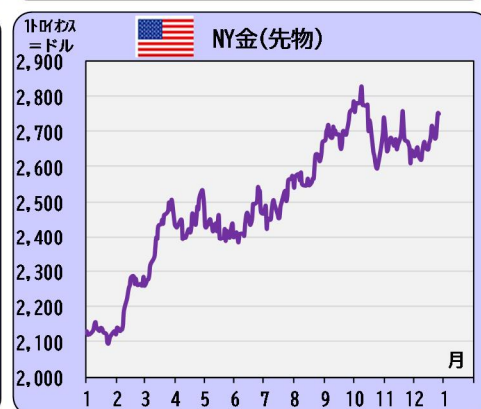
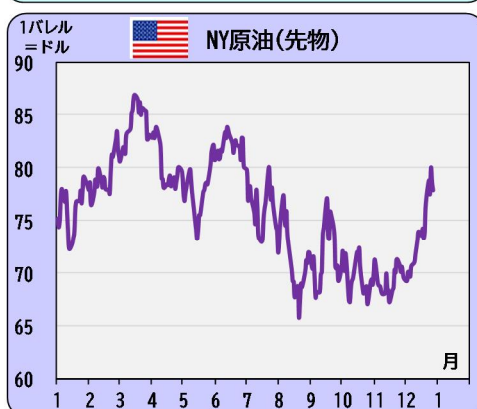
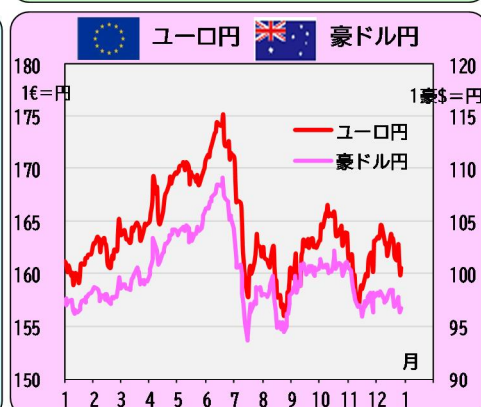
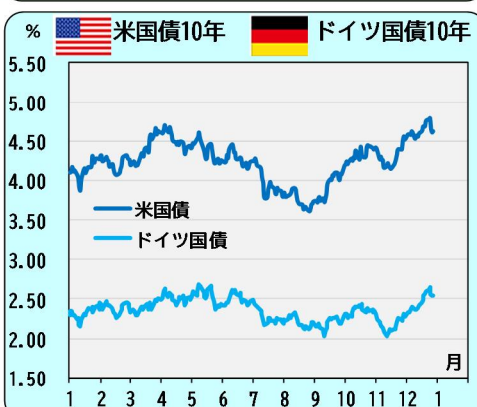
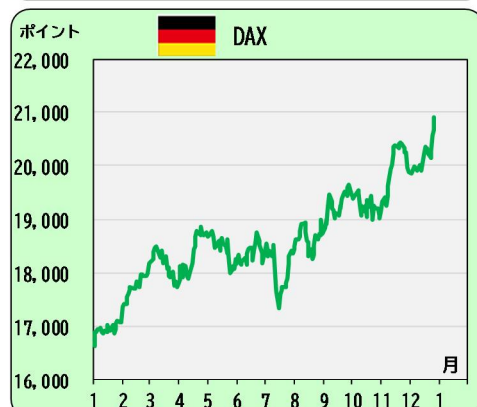
○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
1/20(月)	機械受注統計(11月) 第3次産業活動指数(11月)	米国: トランプ大統領の就任式
1/21(火)	国債入札(40年)	
1/22(水)		米国: 景気先行指標総合指数(12月)
1/23(木)	日銀金融政策決定会合(~24日) 貿易収支(12月)	
1/24(金)	植田日銀総裁会見 CPI(全国12月) 経済・物価情勢の展望(展望レポート)	米国: ミシガン大学消費者態度指数(1月)確報値 米国: 中古住宅販売件数(12月)



③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)
FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率	YCC	イールドカーブコントロール

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。